

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	吹上町立永吉小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	11	11	8	17	17	13	0	77	

研究の概要

1 研究主題

自分らしさを輝かせ生き生きと学びあう子どもの育成 ～基礎学力の定着を図る国語科・算数科の指導を通して～
--

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

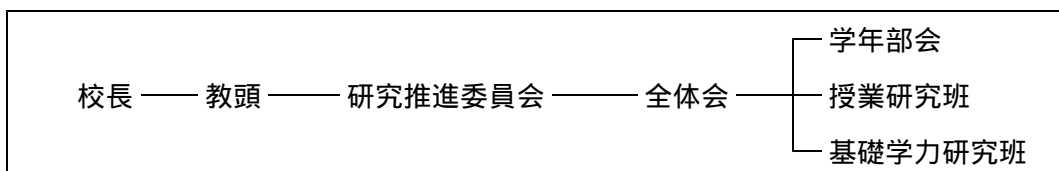
<p>全学年 国語 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年・全児童を対象として取り組むことが効果的であるため。</li> <li>・ これまでの研究成果と学力調査の結果から国語科，算数科の学力向上が特に必要であるため。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自分らしさを輝かせ生き生きと学びあう子どもの育成 ～基礎学力の定着を図る国語科・算数科の指導を通して～ 研究の見通し(仮説)</p> <p>&lt;仮説1&gt; 子ども一人一人の実態をより詳細に把握し，きめ細かな指導に生かすことができるならば，確かな理解の基に自分らしさを輝かせ，生き生きと学び合う授業を展開できるのではないか。</p> <p>&lt;仮説2&gt; 基礎学力の定着を図る場や環境を設定することができるならば，確かな理解の基に自分らしさを輝かせ，生き生きと学び合う授業を展開できるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>&lt;仮説1&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的に問題を解決する学習指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導過程の研究</li> <li>・ 主体的な学習を促す工夫</li> </ul> </li> <li>2 実態把握と評価の研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の基本的な考え方と評価の場の設定</li> <li>・ 評価規準の活用</li> </ul> </li> <li>3 きめ細かな指導の在り方の研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数科におけるTTの指導の工夫</li> <li>・ 習熟の場の工夫</li> </ul> </li> </ol> <p>&lt;仮説2&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 基礎学力の定着を図る場や環境の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の意識調査結果分析と結果の活用</li> <li>・ 学力検査の分析と個人カルテの作成活用</li> <li>・ 基礎・基本の基礎(読み・書き・算)を高める取組(百マス計算，漢字チャレンジ，音読カード)</li> <li>・ 家庭学習の手引きの作成と保護者への啓発</li> </ul> </li> </ol>
--------	--

平成 16 年度	テーマ 平成15年度と同じ 研究の見通し 平成15年度と同じ 研究の内容・方法 <仮説1> 1 主体的に問題を解決する学習指導法の研究 ・ 主体的な学習を促す工夫 (学習の進め方や解決の見通しを持たせる工夫) 2 実態把握と評価の研究 ・ 学習内容の分析と評価規準の活用 ・ 実態把握の観点と指導に生かす評価の研究 ・ 児童の自己評価及び形成的評価の観点の研究 3 きめ細かな指導の在り方の研究 ・ 少人数指導, 個別指導の工夫 ・ 習熟の場, 発展的な学習の場の設定の工夫 <仮説2> 4 基礎学力の定着を図る場や環境の工夫 ・ 基礎学力の定着を図る場の工夫(日課表の検討) ・ 基礎・基本の基礎(読み・書き・算)を高める取組 ・ 家庭学習の与え方の研究
----------------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1 研究の成果

問題解決型の学習指導過程を設定し弾力的に活用した授業展開を進めたことで、子どもたちの主体的な学習を促すことができた。  
 1 時間毎の評価規準を明らかにしたことで基礎基本を捉えた指導ができた。  
 習熟の場を工夫したことで、子どもたちは計算や言語事項の学習等に意欲を持って一生懸命取り組んだ。  
 評価の場面を設定し評価の方法を工夫することで、一人ひとりの子どもの学習状況をより細かく正確に把握することができた。  
 百マス計算や漢字チャレンジ、音読カードは確実に子どもたちに力を付けている。百マス計算の計算時間が短縮している。  
 学力診断テスト結果の個別カルテを作成することにより、一人ひとりの学力の実態をより正確に把握することができた。  
 家庭学習の手引きで家庭での学習の内容や手順を示すことができた。

#### 2 今後の課題

主体的な学習をさらに促すために、学習の進め方や解決の見通しを持たせる工夫をする必要がある。  
 評価規準に曖昧さがあるので、学習内容の分析の方法を研究し、より明確な評価規準を設定する必要がある。  
 朝の読書の時間、はげみタイムの設定等「読み・書き・算」の学習時間を確保する必要がある。  
 百マス計算や漢字チャレンジの内容を改善・工夫する必要がある。  
 一人ひとりの実態に応じた習熟の場、発展的な学習の場の設定さらに工夫する必要がある。  
 学年に応じた家庭学習の内容を検討する必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組

学力診断テストの実施と結果分析，個人カルテの作成。  
児童の意識調査（国語・算数）の実施と結果分析及び個別の指導。  
学力についての保護者アンケート実施結果分析及び啓発。  
地域からの情報収集（アンケート実施）分析と啓発

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティアスクール指定研究発表会  
・ 日時 平成16年11月16日（火） 13：00～17：00  
・ 場所 吹上町立永吉小学校 吹上町立花田小学校  
研究誌作成配布  
学力向上推進協議会を中心にして，町内の各学校間で合同の校内研修の実施，  
資料交換を通して研究成果の普及に努めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無